

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表①～③】

①関係人口の活性化をテーマにしました。チームの中に農業をやっている方が3名いました。地域の農業コミュニティを活性化することで結果的に関係人口も増えていくのではないかとことです。地域の農業コミュニティをやりながら、それがグリーンツーリズムになるのではないかとか。もしかしたらそこから特産品が産まれるのではないかなとか。その場で作った畑でそのまま食べれるようなことをやったら楽しいのではないかとか。体験として旅行にできるのではないかと。このように農業をやっていけば楽しいよねという話になっていきました。

農業で野菜をやっているのですが、最近自然栽培とかこだわりの野菜が氷見の狭い農地では適しているのではないかなと思って。地域の取組みとしてしっかりと手を掛けたものでお客さんを迎え入れて、地域が何ができるかをつくり上げていきたい。

知事：私のように氷見じゃない者から見ると、氷見ってブリ、カニ、漁港、海というイメージがあるのですが中山間地もたくさんあるし、有機農業のような特徴のある農業をやろうという発想なんだと思います。富山県はこれまで稲作を中心にしてきましたが、これからは、園芸作物も増やしていこうということで、氷見での農業も大いに伸ばしてアピールしていただければと思います。

市長：関係人口の活性化という切り口の中で農業から進めていくという。私も氷見に住んでおまして、氷見は魚のまちというイメージがありますけれども、一方で6次産業としてのハトムギとか葡萄とかブルーベリーとかいろいろありますので、農業も大きな成長できる産業ではないかなと思います。

②バラバラのテーマで集まりました。1つめは複業しやすいまちということで、土日に商店とか農家とか漁師・林業などに手伝い・お小遣い稼ぎしやすいような環境にしたいなと思っていて、会社員やっていると複業とかいろんな選択肢を考えるんですけど、跡継ぎに困っているところに入ったりして本格的な体験をして実際にその道に入ったり。体験がしやすい環境になればいいなと思いました。

2つめは駅前商店街で氷見らしい朝市をということ。朝市というと輪島とかあると思うんですけど、氷見も漁港とか新鮮な魚が並んでいて活気があるような朝市で。生臭いような体感もして買い物もできて観光しても楽しいというところがあればいいなと思いました。

西の杜の教育移住というのは、教育を理由にして氷見に移住してくると。氷見で子どもを育てたい。氷見で教育を受けさせたいという学校を氷見にひとつつくりたいなと。ちょうど西の杜学園が小中一貫校になったので、そこをモデルにしてやったらどうかと。データサイエンスとかSTEAM教育という面では指導者がいないので、そういったプログラムを西の杜学

園に組み込んでデジタルの学習から自然体験まで両方できるということを売りにした学校を官民連携でやりたいなと思いました。

知事：ダイバーシティチームというのでしょうか。複業しやすいまちというのは新しい発想だと思います。いろんな仕事を体験しながら場合によっては事業承継に悩んでおられる企業の跡継ぎになると。跡継ぎベンチャーというのは後を継いだ人が新しい部門に挑戦したりすることをいいますが、そんなものを生み出せる素地をつくろうと理解しました。西の杜学園のことは市長にお任せしますが。ぜひ氷見高校、県立高校の中でもとてもユニークだと思います。特に未来講座氷見学を生徒さん自らがやっていて、るるぶをつくってくれたりいろいろなメニューをつくったり。いろんな教育学校とうまくコラボレーションしたら掛け算でいいものができるのではないかと思います。

市長：西の杜学園は富山県でも初の義務教育学校で、去年からスタートしました。小中一貫校ですので英語の先生も音楽の先生もおりますので、やろうと思えば小学校1年生から英語の教育もできるということで。ここは校区制に限らず、市内一円から通えます。今人材が大事でありますので、父兄の皆さんも関心を持っていらっしゃいます。これまで、氷見でハンドボールをやりたいからということで新潟の中学生が氷見の中学校に来てハンドボールをやったりとか、教育移住というものもありますので、私も素晴らしいアイデアだと思います。

③真の幸せウェルビーイングチームです。かっこいい大人を子どもに魅せたいとか、里山の宝をもっと活かしたいとか減農薬をして海をきれいにしたいという意見がありました。まとめますと氷見の三原則、氷見の海と山と人と氷見の地域にしかない宝を活かして関わり合いながら真の幸せを感じられるウェルビーイングなものになればいいかなと思いました。

知事：氷見は海と思っていたのが、山も大切ということ。もちろん人もいらっしゃるといことで氷見の三原則を活かして氷見のウェルビーイングを上げていく。考えてみれば森と海は恋人って言いますよね。まさに氷見には両方が揃っている。ウェルビーイング先進地域富山県という前に氷見だなと改めて思いました。

市長：第9次氷見市総合計画、来年度からスタートしますが目指すべき将来像というのが、人・自然・食・文化の4つで未来を拓く交流都市です。言ってることは同じようなことなのかなと思います。そんなものが人の幸せに関わってくるのかなと思います。

④

関係人口1000万人チームです。氷見市に大学がないというところから考えました。大学生の氷見生活のインターンシップがあったらいいなという意見がでました。そのために廃校を使った拠点づくりとか、県外から文化とか芸術、音楽を学んでいる学生が氷見市で活躍できる、発信できる場があればいいんじゃないかなという話になりました。

知事：大学がないから大学生に来てもらおうという逆転的な発想なんだと思います。利賀村がありますが、利賀村に慶応大学のある先生のゼミの学生が10年くらいフィールドワークと

して年に何度も利賀村に来て、そこでいろんな勉強をして課題解決をしてくれています。いろんな大学からというか私はどこかそういったお相手を見つけて、パートナーとなるような学校やゼミを見つけて、ある程度の中長期的なレンジでやってみるというのもひとつのアイデアかと思います。

市長：大学が無くて若者が少ないというのはやはり活気がないまちでありまして。氷見市は4年前から名古屋の名城大学の農学部と連携協定を結んで、農学部の先生に氷見に来てもらって自然農の指導をしてもらったり、イノシシ肉を柔らかくする先生に来てもらってイノシシカレーをつくったりしております。去年、名城大学全学部との協定に変更をしまして、理学部とか。特に名城大学は青色発光ダイオードでノーベル賞をとったりとか。コロナで1-2年名城大学の学生さんが来てもらえないということで、来年はもっと幅広く交流をやっていきたいと思います。そういったことで多くの学生さんに来てもらおうと思います。

【振り返り】

参加者：人材交流をテーマに話し合いました。私自身、子育て世代として西の杜学園のことがそういう視点から物事を考えられるんだなとすごく印象に残りました。児童が考えた公園とか若い人たちが集まるような場所になってほしいなと思っているので、みなさんの意見を聞いてとても勉強になりました。

参加者：今回参加させていただいて、私は今まで氷見市のないことに目を向けがちがったのですが、氷見市にある農業とか山とか文化とか、あるものを出してどうしていくかということを考えるいいきっかけになったなと嬉しく思いました。

参加者：もし今回のビジョンに書いたことが本当に実現されるのであれば、結構楽しい富山県になるのではないかなと思いました。

参加者：最初の自己紹介の時に一番驚いたんですけど、働いていたらサラリーマンしかいないんですけど、今来られてた方って自営業とか経営者の方が多くなってるかなって思って、そういった方のほうが危機感とか、良くしようという意識が高いのかなって自分ももうちょっとちゃんと参加しようかなと思いました。

参加者：グループワークの中で大学生っていうのが関係人口の中で重要だと考えておられるということを改めて感じました。大学生を意識して氷見の活動をやっていきたいなと思いました。

参加者：気づいたことは、地元に対して熱い思いを持っていらっしゃる方がすごくたくさんいるんだなとわかって、目からうろこというか、仲間がいっぱいいるんだなとわかりました。たくさんアイデアがあって全部実現できればいいんですけど、実現していくには連携が大事だなと思います。ひとりひとりのアイデアとかはすごく良くて。点だとなかなか実現していかないし大きな事にはならないんですけど、繋がって線になって面になっていくといいし、それぞれが持っている得意な事を持ち寄っていけばおもしろいことが形になってい

くんじゃないかなと思います。自分が何ができるかというところで、連携を強めていけるように明日からやっっていこうかなと思いました。

参加者：大学がないことを嘆いてるのではなくて、ないからどうしても若い人たちが留まらない。留まらないのであればどうやっっていけばいいのかと話を広げていきました。ここで生まれた人じゃない新しい視点で氷見を見てもらったときに氷見はどう受け止めてもらえるのだろうかということを中心に自分たちの生活にフィードバックしていけるような体制がとれたらいいねと思いました。どうしても子どもが育っていくときに高校から先、県の外へ出てしまうのはなかなか防げない、防ぐことも必要無いのですが。止めることはできませんし、学びたいという意欲があればどんどん学びたい。振り返ったときに地域に魅力があるかどうかということが一番大きなテーマになるのではないかなと思います。学生さんもチームにいたので、とても有意義な会だったと思います。

参加者：今僕は小学校一年生の娘がいます。アイデアを実現していく活動に子どもも一緒にできたらいいなと。一緒にできた子どもは関係性ができてるので。帰ってきてくれるのか。外でも氷見のことを関わり続けてくれるのか。といったかたちで育っていくのではないかなと思いました。僕は地域おこし協力隊で氷見に移住してきたのですが、自営業していたのですが今は一般企業に勤めています。ライフスタイルも変わって。氷見で生活する時間が減ったので氷見にあまり関わってなくて。寂しく思っていることも正直あります。氷見の中でいろんなものが動き始めると、自分も関わる部分が増えて楽しく過ごせるのではないかなと思いました。

参加者：みなさんが心の中に持っているいろんなことがあるんだな、出てくるんだなと思いました。言い足りないなと時間が足りないなと。みなさんの強い想いやこういう場をつくることの大切さを感じました。

参加者：私はちっちゃいときから氷見で育ち、夏は海で泳いだり山でトンボをとったり、氷見の山と海は当然のことだと思っていたのですが、今日氷見って海の印象だと言われて。農業をやっっていてどうしても里山干し柿づくりだったり、かぶら寿司だったり。野菜を通しての保存食づくりワークショップも年間を通してやっっているのですが。まだまだ氷見が山があるという発信力が少ないのかなと思って。もっといろんな方と関わって氷見の発信をしていかなければと思いました。

参加者：氷見にはブリとみなさん言われますが、そもそもブリは山から流れてきたきれいな水があっってこそそのブリだと思います。その中でも山といえば米が豊かで注目を浴びています。イノシシの処置はなされていますが、もう一つ畑で手ごわいのがハクビシン。人間の手には及ばないほどの災害が起きています。ハクビシンもイノシシのジビエと共にジビエにできないかと考えていただきたいと思います。農業も米同様に作れるように頑張っっていっていただきたいというのが本音です。私も畑をやっっていますが、肥料を使わない畑として自分が毎日焙煎してありますコーヒー豆を畑に入れて、無農薬の野菜を作っっています。おかげさまで虫一匹つかずきれいな野菜で食っっています。

参加者：いろいろな考えや意見をそれぞれの人が持っているんだなと改めて気づかされました。多面的に氷見を見る事が出来たんじゃないかなと思います。これだけいろんな想いがあるのであれば民間からどんどん行動を起こしていくべきだし、行動を起こした民間と官民連携をしながら、より良い富山県をつくっていければいいなと思いました。明日からJCの中でも今日の発見した考えを活かして取り組んでいきたいなと思いました。

参加者：貴重な体験をさせていただきました。知事さんとこんなに近くでお話できるというのはなかなかないものですから。限られた時間ではありましたがいろんな意見交換ができて。私は中山間地、過疎化の中で米作り畑をしています。いい歳になりましたので無農薬も含めて、ひとつひとつ楽しみながら氷見で生活をしていきたいと改めて思いました。

参加者：繋がりという言葉。海と山の繋がり。まちと建物の繋がりとか。人と人との繋がりが一番大事だと思います。多数の意見を実行できるかが大事だと思います。それぞれの場所や地域で育って動いていくことが大事だと思います。女性の方もいっぱいおられました。学生さんもいっぱい来てほしかったなと。次の世代を担っていく人たちが意見を出し合ってもらえるのが大事かなと思います。次の機会も参加したいです。

知事：最初はかたかったですが、90分もたてばこんなにあたまが、まさにアイスブレイク、一体感が出てきました。今日はいいチームができたと思います。実は私知事になる前、政治活動をずっとやっておりました。その時には氷見にも何度も来てまさに車座になっていろんなお話しをしました。それをまとめて今の政策にしました。今回ビジョンセッションでまた氷見に戻ってこれて嬉しく思います。

市長：みなさんどんどんアイデアが出てきて、氷見のみなさん熱い想いを抱いていらっしゃるって感服しました。行政というのは全てできるわけではありませんので市民の皆さんがいろんなことを頑張っているのを応援するのが行政だろうと思います。市としても一生懸命応援したいなと思いました。

参加者：真の幸せというテーマで話しました。知事の横でこんな・・・！真の幸せは高齢者にあると思います。60歳ぐらいまではみんな当たり前幸せなんです。本当の幸せは歳いってから。私80歳健康が一番大事なんです。その健康づくりはやっぱり農業にある。農業をやっていると土から、野菜から力をもらって本当にやらんにやならんという、物を作る意欲がでてきて疲れもとれて、一日一日目標を持って毎日健康的に過ごせます。そうすれば寝たきりの老人が少なくなるのではないかなと思います。